

読書

境界である。目の前の豊かな海域でコンブやカニを安全に漁獲したい。そこで物や情報を提供して引き換えに操業を保証させる「レボ船」が生まれた。情報は相互的なものだから、日本の公安関係ともひそかなつながりが生まれ、国家の建前とは隔たる怪奇な世界が広がる。

日口現場史



(北海道新聞社・2205円) 春名 徹

ないほど、内容は多岐にわたる。そしてこれさえ読めば北方領土問題がすぐ分かるという性格の書でもない。むしろ読書によって現実の混沌を私たちが引き受け、国家の行為と生活者の日常との距離を考へる機会としてほしい。

事件となり報道されることで可視化される。だが、まもなく風化し、繰り返される。これ以上、悲劇を起さないとめには何が出来るのか。子どもとして彼らを支える人々の生の声が、このことを問いかける。

誕生日を知らない女の子

う。ここで描かれる子どもの現実とは、親の幼少期の映し鏡ともなっている。だが著者は、同時に希望も語る。「本来の家庭」のように虐待を受け入れる「ファミリーホーム」で彼らは本来の笑顔を取り戻す。ある里親は、根を張れる場所があるかが希望への分かれ道だ、と

年に来日し、大空を飛んで人々を魅了していた。しかし、この事実を確かめたのは端緒にすぎない。当時の日本は、女性パイロットはおろか、女性が社会的に活躍できる職業に就ける分野は看護婦や新聞記者などに限られていた。

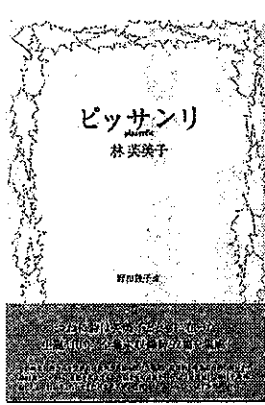
お嬢さん、空を飛



(京都大教授・根井 雅弘) (NTT出版・2520円)

書を読むと、その時代から現代の女性宇宙飛行士への道りが連続しているように思えてくるから不思議である。「ス嬢」から始まった著者の探検が、古来の新聞社に回帰していく展開も興味深い。

ブックカバー



あたる昨年の秋出版された林芙美子作品集「ピッサンリ」(野田敦子編、思潮社・2730円)。「林芙美子は生涯現役の詩人だった」と告げる労作だ。

生涯詩人だった 林芙美子の足跡

戦後に書いた少女向けエッセーにある「詩人の声を、わたしたちは、心を澄ましてこれからきこませよう」という言葉が印象的だ。(青木 幸恵)

林芙美子といえは、「放浪記」と答え、ちよつと考へて「浮雲」「晩菊」と続く。若いころに詩集を出したけど、肩書はやっぱり小説家だよ。そんなふうにいる人、読んでほしいのが、生誕110年に

稿した淡い恋心の詩、上京後のどん底暮らしで書いた「私」という語を多用した詩、兵隊や銃後の暮らしを見詰めた詩。南京陥落時に従軍作家一番乗りを果たしたことで知られる芙美子が、日々と時代をどううたったかも興味深い。

「日本國」から来た日本人

西牟田 靖 著

大日本帝国の崩壊に伴い、総人口の1割に当たる650万人が海外植民地から引き揚げた。この日本人の一大体験に関心を抱く1970年生まれの著者が、日本海軍の拠点だった韓国南部・鎮海で育った十数人に植民地での生活、戦時下の教育、引き揚げ体験とその後の苦労について聞いたドキュメンタリーだ。

著者は「朝鮮人への差別はあったか」と聞き、「まるで洗脳」と軍国教育に驚く。そのナイーブさが世代を超えた体験の継承を成功させている。(春秋社・1995円)

「人権は国境を越えて」 伊藤 和子 著 弁護士としての著者は、北京で開かれた世界女性会議に非政府組織(NGO)の一員として参加し、海外で深刻な人権侵害が続いていることを知る。

「キャリアクタードラマの誕生」 成馬 零一 著 「家政婦のミタ」の遊川和彦、「あまちゃん」の宮藤官九郎といった「いま見るべきドラマの脚本家」6人を取り上げ、作品に込められた意図や創作の流儀を、若手評論家が鮮やかに読み解く。

文庫 & 新書

▼柴田よしき著「クロス・フアイヤー」 舞台はプロ野球チームに女性選手が入団するようになった時代。栗は「客寄せパンダ」と陰口をたたかれたながらも、左腕アトラスローの中継ぎ投手として奮闘していた。その隠れた才能に目を付けた臨時コーチの雲野は、先発への転向という大改造に乗り出す。厳しい競争の世界で、悩みつづつ成長していく女

性を描いたスポーツ小説。(徳間文庫・651円) ▼森炎著「司法権力の内幕」 「裁判所は人権のとりで」というのは幻想だ。元裁判官の著者がそう断言し、第三権力のゆがみを告発する。死刑や被疑者の勾留判決の官僚主義的な判断、検察官とのたれ合いの一方で顕著な政治への弱腰。こうした実態は構造的なもので内部改革は難しいとし、裁判員制度を活用して市民の力で司法のあり方を変えていくことを呼び掛ける。(ちくま新書・798円)

あなたも自費出版しませ

神奈川新聞社では、あなたの本づくりのお手伝いをいたしております。プロの編集者、デザイナーがご相談にのり、大事な作品を1冊の本に仕上げます。

かなしん自費出版

同大賞は、神奈川